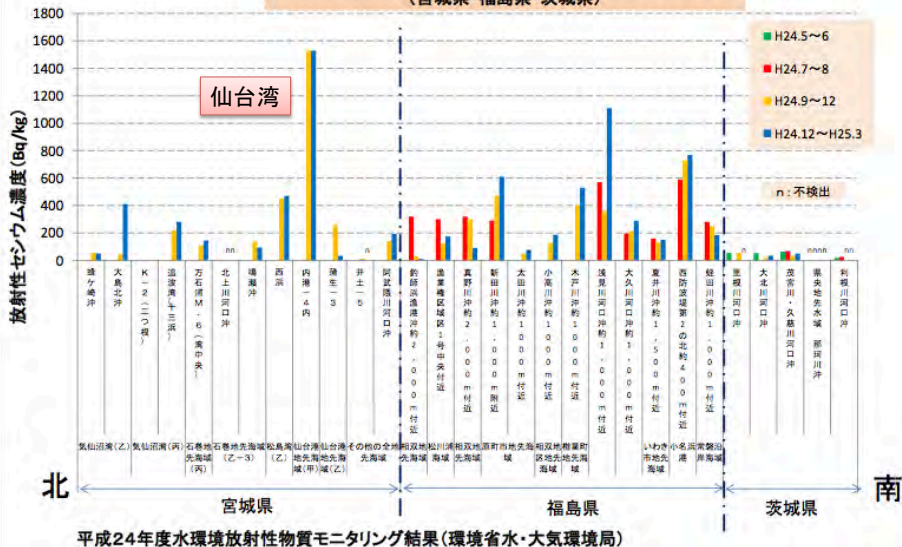


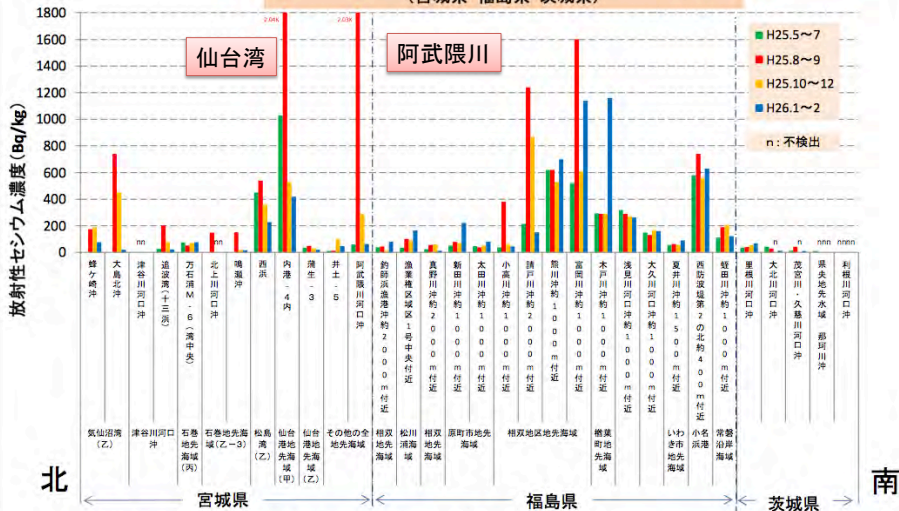
# H24年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 1

H24年度 沿岸(1~2Km)の底質の放射性セシウム濃度の推移  
(宮城県・福島県・茨城県)



# H 25年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 2

H25年度 沿岸(1~2Km)の底質の放射性セシウム濃度の推移  
(宮城県・福島県・茨城県)



平成25年度水環境放射性物質モニタリング結果(環境省水・大気環境局)

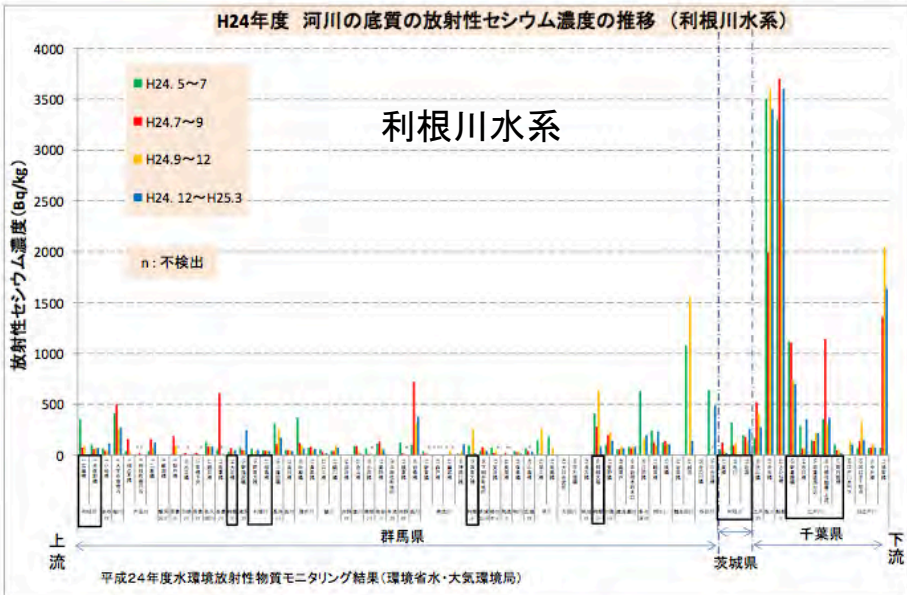


# 河川と湖沼の環境の比較

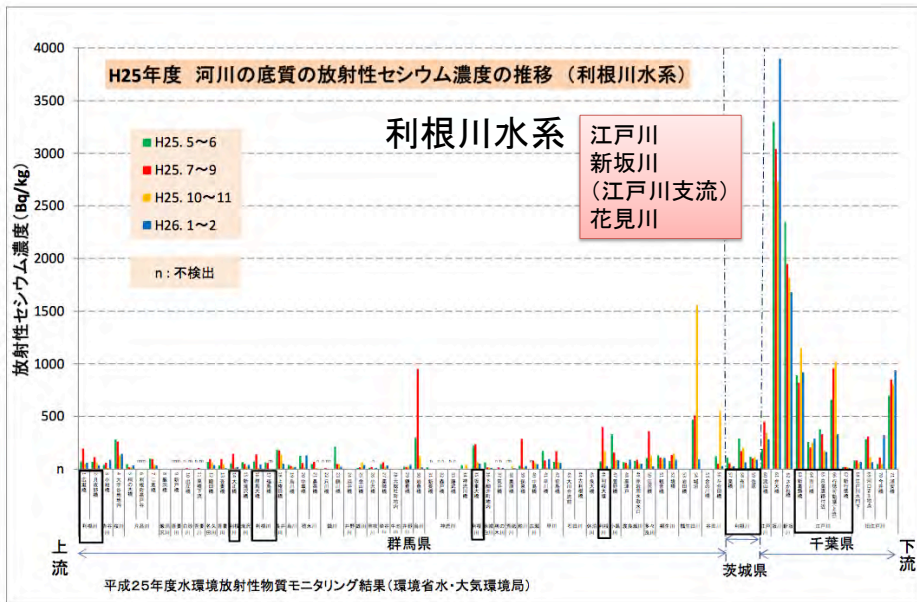
表1. 河川と湖沼の性質の比較(沖野, 2002「河川の生態学」より)

機能			湖沼	河川
閉鎖性			強い(閉鎖的)	緩い(開放的)
蓄積力	水		調整作用大	調整作用小
	物質	底泥	累積的, 非可逆的	一時的, 可逆的
		水塊	定常的, 変動小	非定常, 変動大
生物生産の場			安定	不安定
生物学的分解の場			安定(好気, 嫌気)	不安定(好気)
酸素の供給力			全体としては小	大
流送力			弱い	強い

## H 24年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 4

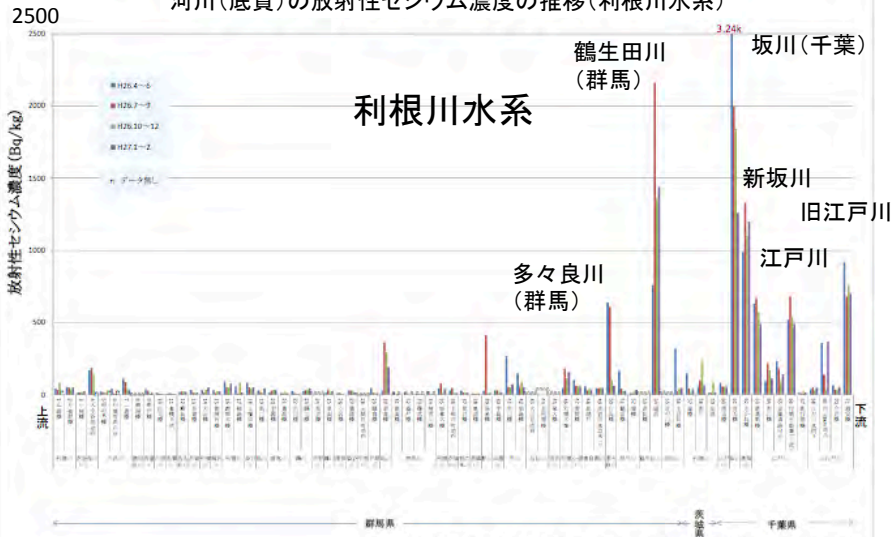


# H 25年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 5



# H 26年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 6

## 河川(底質)の放射性セシウム濃度の推移(利根川水系)



# H 27 年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 7

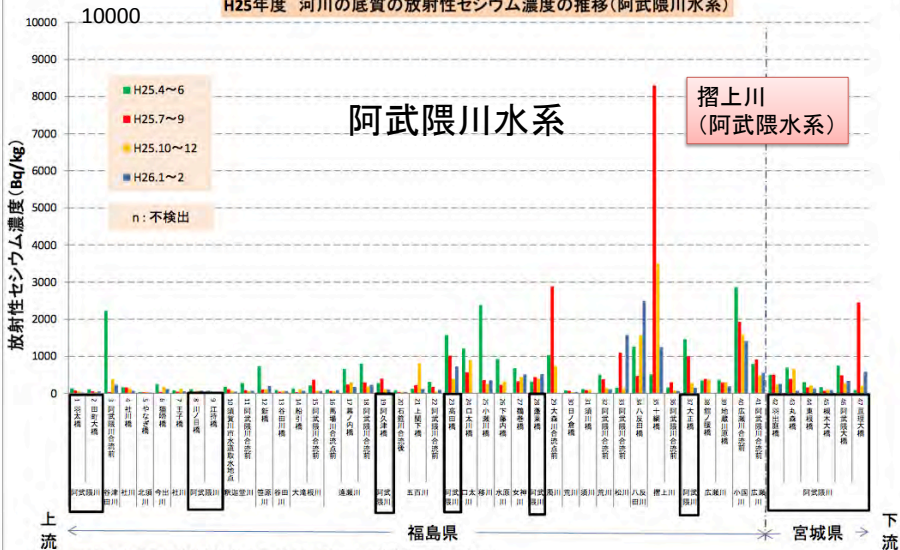
## 河川(底質)の放射性セシウム濃度の推移(利根川水系)



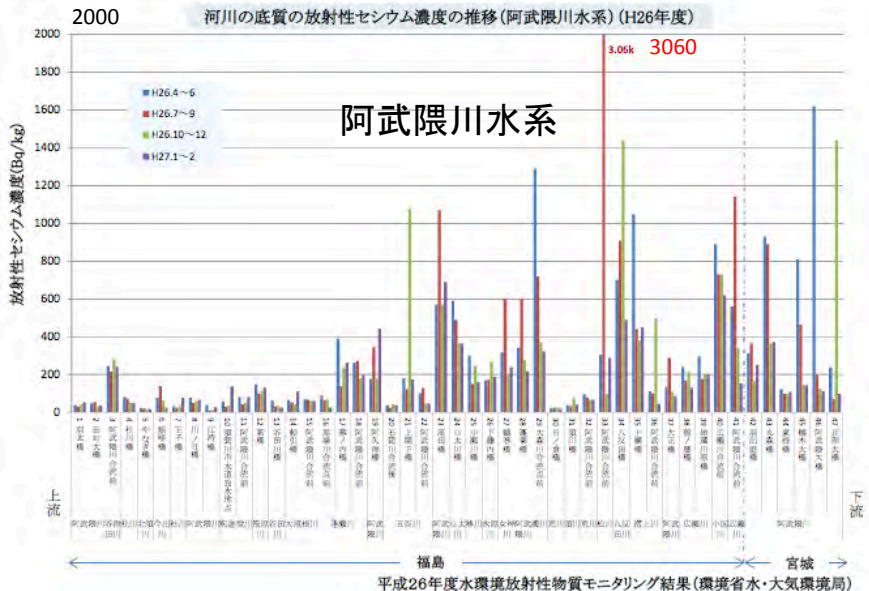


# H 25 年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 8

H25年度 河川の底質の放射性セシウム濃度の推移(阿武隈川水系)



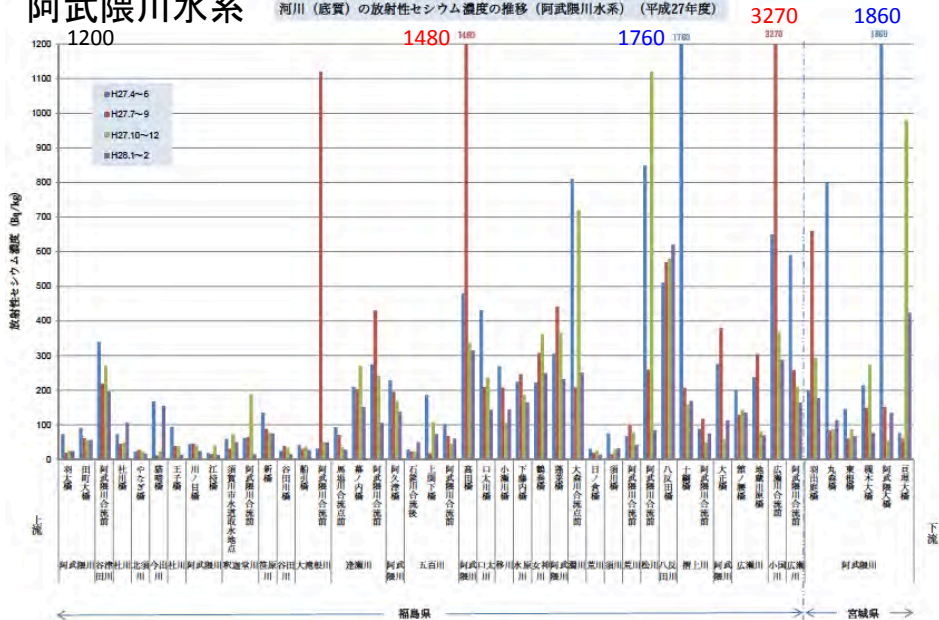
# H 26 年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 9



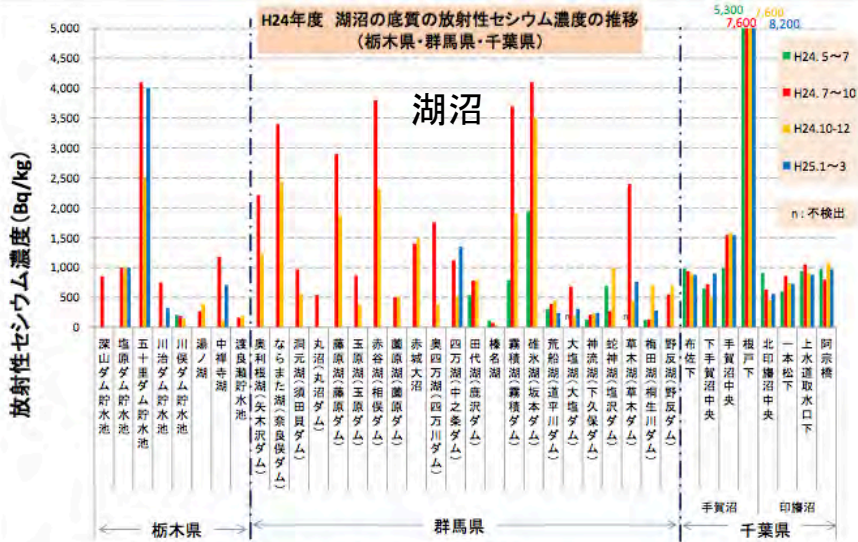
# H 27 年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果10

## 阿武隈川水系

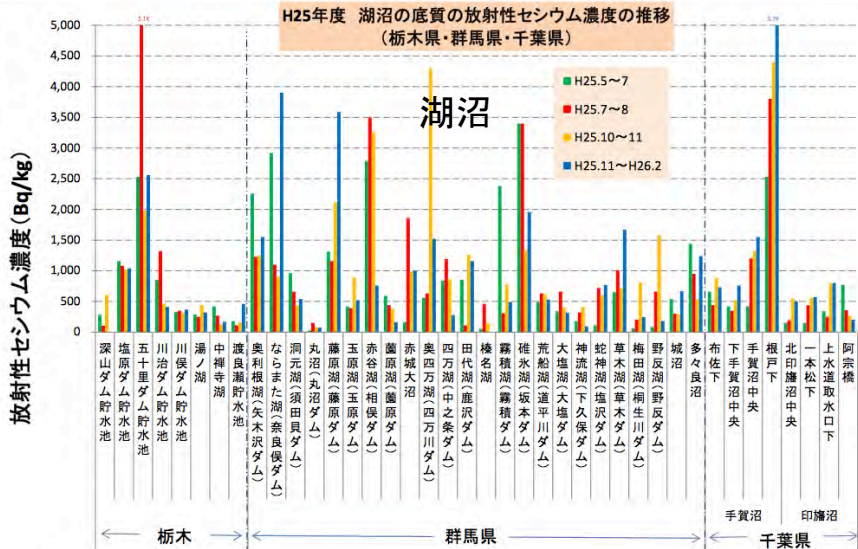
河川（底質）の放射性セシウム濃度の推移（阿武隈川水系）（平成27年度）



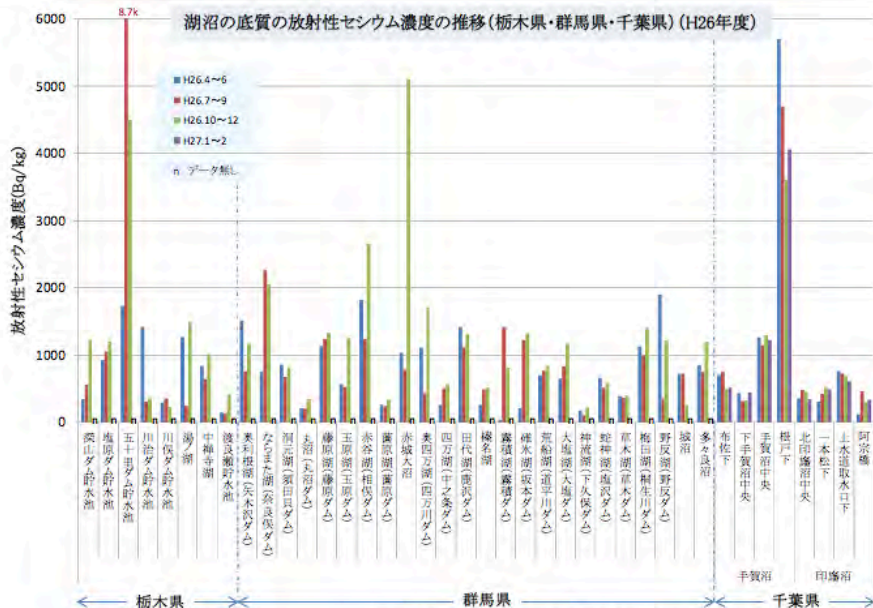
# H24年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 11



# H 25年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 12



# H 26 年度 環境省の水環境放射性物質モニタリング結果 13

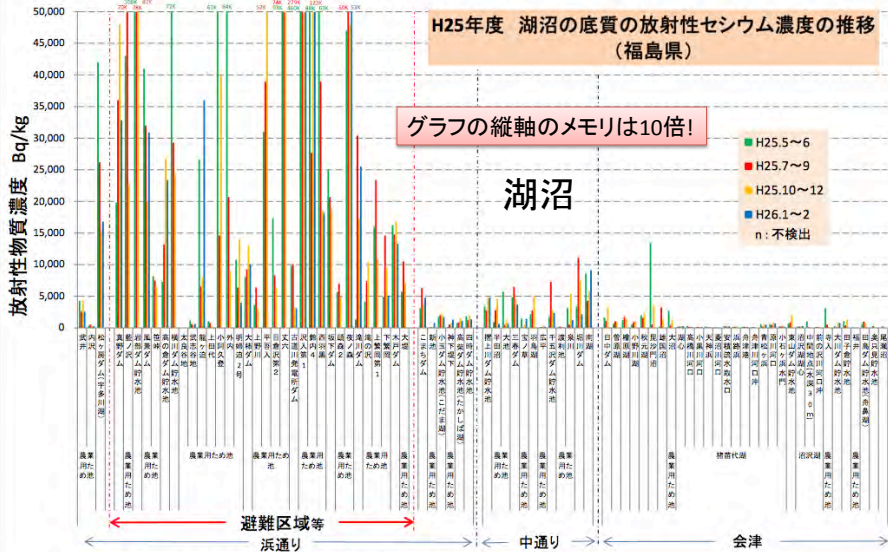


# 福島県避難区域内の湖沼のセシウム濃度は相当に高い 14

H25年度 湖沼の底質の放射性セシウム濃度の推移  
(福島県)

グラフの縦軸のメモリは10倍!

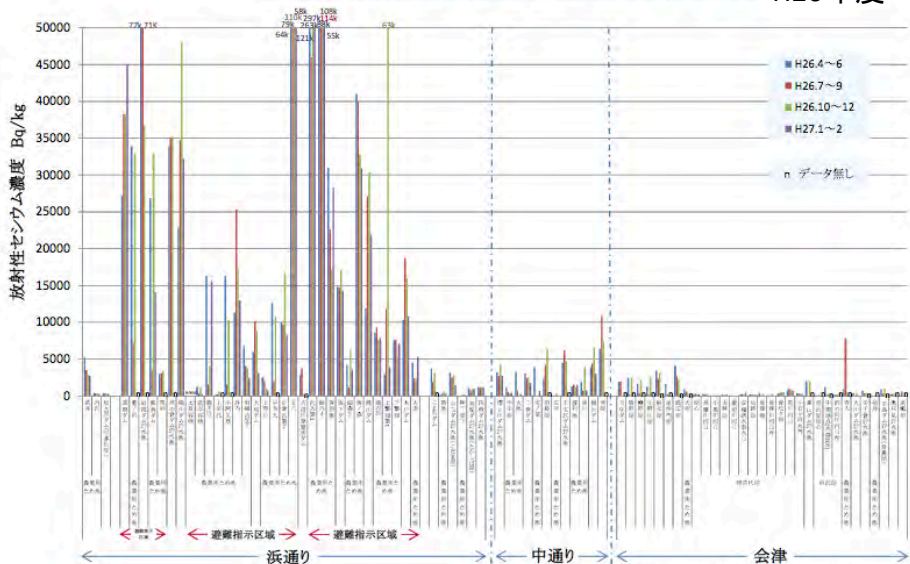
湖沼



# 福島県避難区域内の湖沼のセシウム濃度は相当に高い 15

湖沼の底質の放射性セシウム濃度の推移(福島県)(H26年度)

H26年度



避難指示区域の状況については平成27年3月31日時点

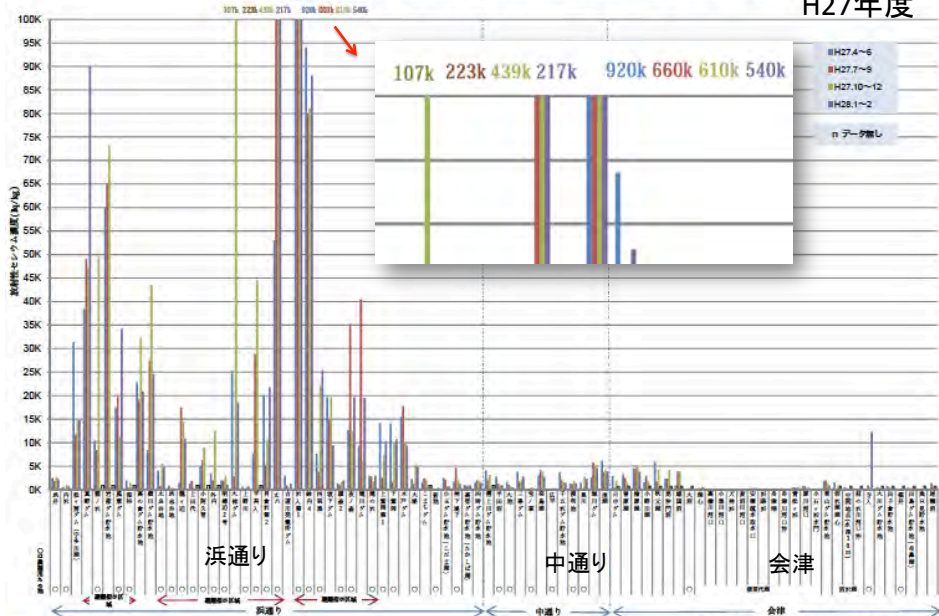
平成26年度水環境放射性物質モニタリング結果(環境省水・大気環境局)



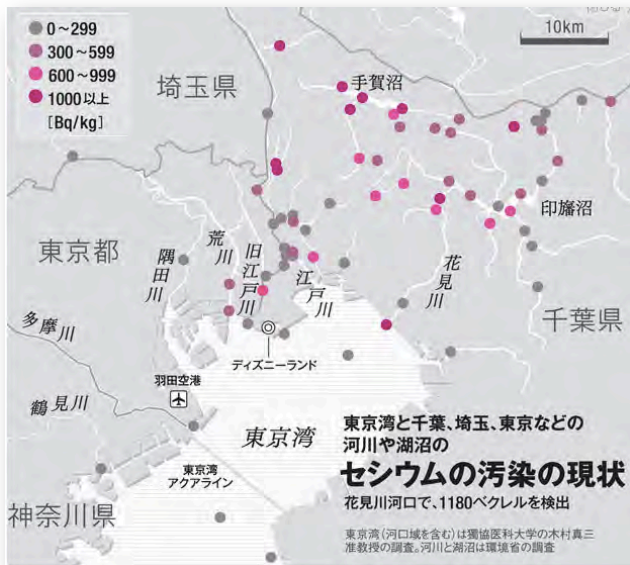
# 福島県避難区域内の湖沼のセシウム濃度はまだ高い 16

湖沼（底質）の放射性セシウム濃度の推移（福島県全域）（平成27年度）

H27年度



# 東京湾奥部とその北部の河川・湖沼の汚染状況



## 東京湾のセシウム汚染 印旛沼から拡散 河口水門で高止まり

朝日新聞

ツイート 23 シェア 691 G+ 4

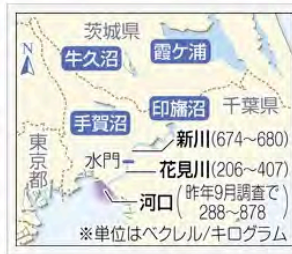
2016年4月14日 朝刊

東京電力福島第一原発事故による首都圏への放射能汚染問題で、本紙は昨年続き、茨城、千葉両県にまたがる水郷地帯の状況を独自に調査した。前回と比べ放射性セシウム濃度の上下はあるものの、手賀沼（千葉県）や牛久沼（茨城県）の汚染は高止まりの状況。印旛沼（千葉県）から花見川河口（同）へとたどったところ、沼から川、東京湾へと汚染が拡散している状況が分かった。（山川剛史、荒井六貴）

調査は今年一月、水郷一帯の沼や川計二十四カ所で採泥器を用いて底の堆積物を採取。合わせて河川敷など採取地近くの土も採取した。乾燥させ落ち葉などを取り除き、樹脂容器に詰め、それぞれ八時間かけてセシウム濃度を測定した。

その結果、汚染が目立ったのは手賀沼。沼そのものは昨年より少し低下傾向が見られるが、上流にある調整池の中央では、一キロ当たり五八六七ベクレルを検出した。

採取点近くの地上の土は九〇六九ベクレルあり、分別管理が求められる指定廃棄物（八〇〇〇ベクレル超）を超える濃度。高さ一メートルの空間放射線量も毎時〇・七マイクロシーベルト近くあった。現場は、すり鉢の底のような場所。雨で増水して汚れた土砂がたまり、水が引いた後に乾いて濃縮する—というプロセスを繰り返し、局所的に濃度が高くなったとみられる。



採取点近くの地上の土は九〇六九ベクレルあり、分別管理が求められる指定廃棄物（八〇〇〇ベクレル超）を超える濃度。高さ一メートルの空間放射線量も毎時〇・七マイクロシーベルト近くあった。現場は、すり鉢の底のような場所。雨で増水して汚れた土砂がたまり、水が引いた後に乾いて濃縮する—というプロセスを繰り返し、局所的に濃度が高くなったとみられる。

水郷の湖沼 底にたまった 放射性セシウム濃度		
	2015 昨年	2016 今年
手賀沼 (千葉県)	648	659
	2705	5867
印旛沼 (千葉県)	279	337
	942	413
霞ヶ浦 (茨城県)	46	95
	488	1022
牛久沼 (茨城県)	321	327
	696	953

(単位はベクレル/キログラム)

昨年一〜二月の前回調査の後、同九月に実施した東京湾調査では、花見川河口で高い汚染が確認された。その汚染源が印旛沼かどうかを確かめるのが、今回の調査目的の一つだった。

印旛沼と花見川をつなぐ新川は、水門でせき止められてよどみ、七〇〇ベクレル近くにまで上昇していた。

水門より下流の花見川では、二〇〇〜四〇〇ベクレルに低下。河口に近づくと水量は激減し、堆積物はほとんどなく、採取できなかった。大雨の際には水門から大量のにごり水が放出される。セシウムを含む泥が海へと洗い流され、河口で堆積したとみられる。

一方、国内二番目の大きさの霞ヶ浦（茨城、千葉両県）は地点によって九五〜一〇二ベクレルと濃度のばらつきが大きい。水深のある地点の方が濃度が高くなる傾向があった。

#### ◆本紙調査

本紙は二〇一四年五月から、福島第一原発事故で放出された放射性物質の汚染状況について、福島第一沖や福島県の農地、東京湾、首都圏の主要河川や湖沼で調査を続けている。今回が十二回目。

福島では、表土を除去しないまま耕した農地ではかなり高い汚染が残り、未除染の山中で採取した山菜には食品基準の二千倍を超えるものがあるなどの実情を報じた。水準は一段低いものの、首都圏でも要注意レベルの汚染が残っていることも伝えた。

# 淡水魚の汚染今も 霞ヶ浦など水郷調査2回目

2016年04月14日

東京新聞  
こちら原発取材班

古くから水運、農業、漁業、観光の要となってきた千葉、茨城両県にまたがる水郷地帯。水の  
下には放射性セシウムがどれほどの濃度でたまっているのか。昨年に続いて2回目となる本紙独  
自の調査では、水域がほぼ閉じられていることもあり、セシウム濃度が下がるなどの明確な状況  
は見られなかった。（山川剛史）



H25年(2013年)  
海上保安庁海洋情報部  
放射能調査結果と外洋  
-海底土

ストロンチウム90

セシウム134

セシウム137

仙台湾は高い!

東京湾も少し高い

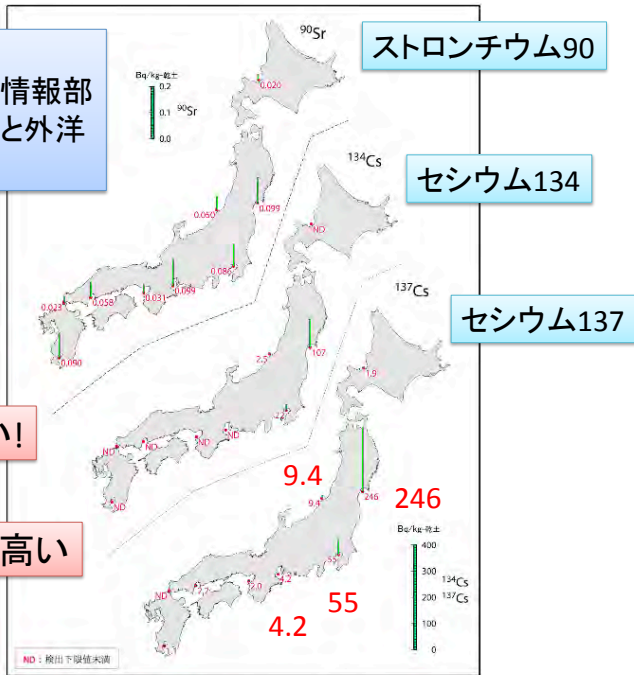


図 1-5 平成 25 年日本近海放射能調査結果-海底土

H26年(2014年)  
海上保安庁海洋情報部  
放射能調査結果と外洋  
-海底土

ストロンチウム90

セシウム134

セシウム137

仙台湾は増加!

東京湾も少し増加

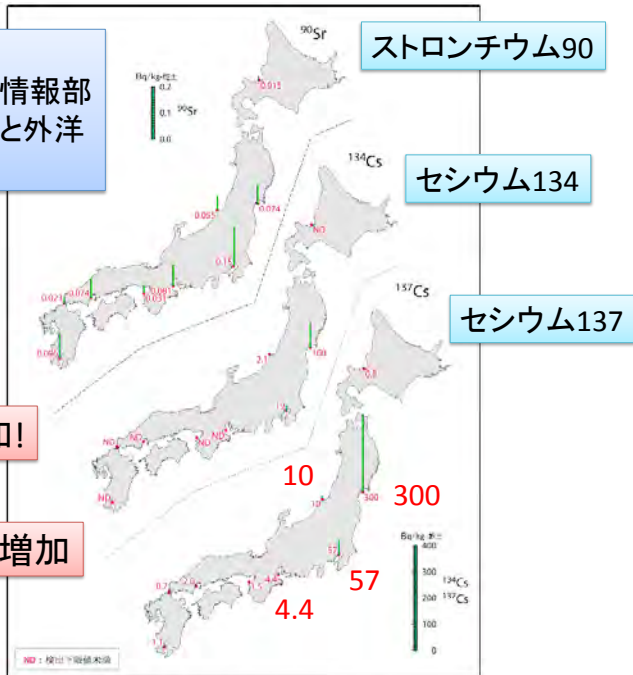


図1-4 平成26年日本近海放射能調査結果-海底土

H27年(2015年)  
海上保安庁海洋情報部  
放射能調査結果と外洋  
-海底土

ストロンチウム90

セシウム134

セシウム137

仙台湾は微増!

東京湾は減少

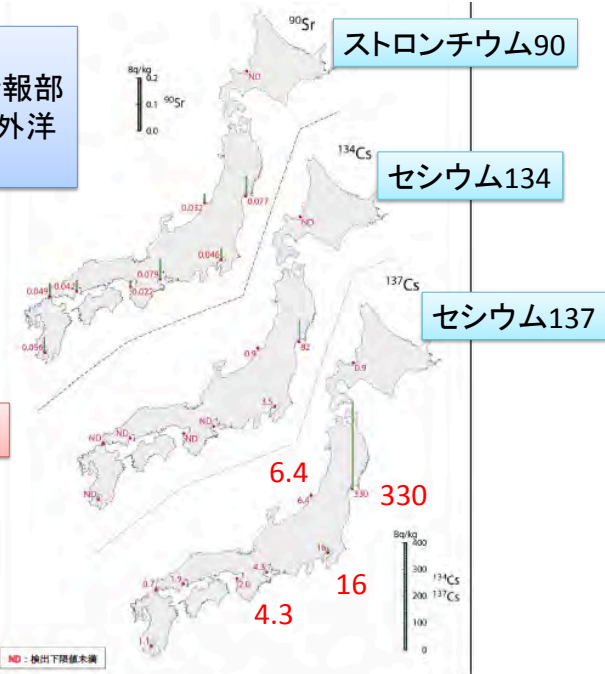


図 1-4 平成 27 年日本近海放射能調査結果-海底土



## 放射性セシウムの 基準値超え品目一覧

ジャンル	品目	ベクレル/ キログラム	産地
野生鳥獣肉	ニホンジカ肉	650	群馬県前橋市
	ツキノワグマ肉	640	群馬県前橋市
	イノシシ肉	450	栃木県那珂川町
	シカ肉	530	埼玉県秩父市
農産物	チャナメツムタケ(野生)	1500	長野県佐久市
	アカモミタケ(野生)	970	山梨県富士吉田市
	ショウゲンジ(野生)	770	山梨県富士河口湖町
	コシアブラ(野生)	530	群馬県みなかみ町
	ハナイグチ(野生)	360	静岡県富士市
	キハツタケ(野生)	330	静岡県裾野市
	タラの芽(野生)	220	栃木県日光市、 栃木県那須塩原市
	シロナメツムタケ(野生)	210	山梨県富士吉田市
	チチタケ(野生)	150	長野県軽井沢町
	原木シイタケ	140	茨城県

ブラウントラウト 260 栃木県 中禅寺湖  
 コイ 210 千葉県 手賀沼  
 イワナ 140 日光市 渡良瀬川  
 ヤマメ 120 栃木県 上沢渡川  
 ギンブナ 120 千葉県 手賀沼  
 ワカサギ 110 群馬県 赤城沼・榛名湖

水産物	カヤタケ(野生)	120	山梨県富士吉田市
	タマゴタケ(野生)	120	山梨県富士河口湖町
	ヌメリイグチ(野生)	110	長野県軽井沢町
	タケノコ(野生)	110	群馬県みなかみ町
	ゼンマイ(野生)	110	栃木県鹿沼市、 長野県軽井沢町
	ブラウントラウト	260	栃木県日光市(中禅寺湖)
	コイ	210	千葉県柏市(手賀沼)
	イワナ	140	栃木県日光市(渡良瀬川)
	ヤマメ	120	群馬県中之条町(上沢渡川)
	ギンブナ	120	千葉県柏市(手賀沼)
ワカサギ	110	群馬県前橋市(赤木太沼)、 群馬県高崎市(榛名湖)	

※2014年4月～15年1月までの主な基準値超え(1キロ当たり100ベクレル)品目。17都県のうち東北地方を除いた。同じ品目の場合は、もっとも高い値を採用。17都県は青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県。厚生労働省が集計したデータをもとに編集部で作成

2014年4月～2015年1月までの主な基準超え  
 (1キロあたり100ベクレル)品目. 17都県のうち  
 東北地方を除く.

AERA 2015年3月9日の記事より

2016年5月11日(水)のニュース

## 給食のタケノコご飯から基準超のセシウム 宇都宮の小学校

産経新聞 5月11日(水)20時23分配信



宇都宮市は11日、市内の小学校で10日に提供した学校給食のタケノコご飯のタケノコから、基準値（1キログラムあたり100ベクレル）を超える放射性セシウムが検出されたと発表した。

市によると、10日の給食で同校児童531人が食べたタケノコごはんを簡易検査したところ、基準を超える放射性セシウムが疑われたため、栃木県林業センターで精密測定。その結果、最高で234ベクレルを検出した。

県環境森林部がタケノコの出荷者に事情を聞いたところ、出荷制限がかかっていない宇都宮市産に、出荷制限区域のタケノコが交じっていた可能性があるという。